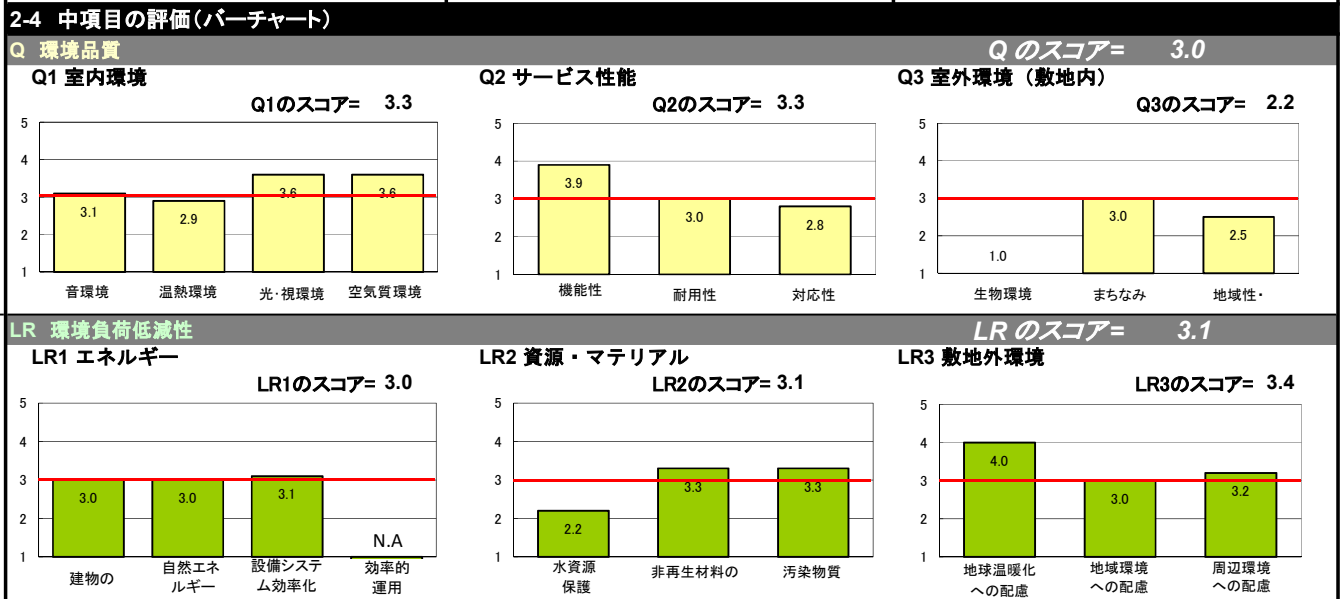
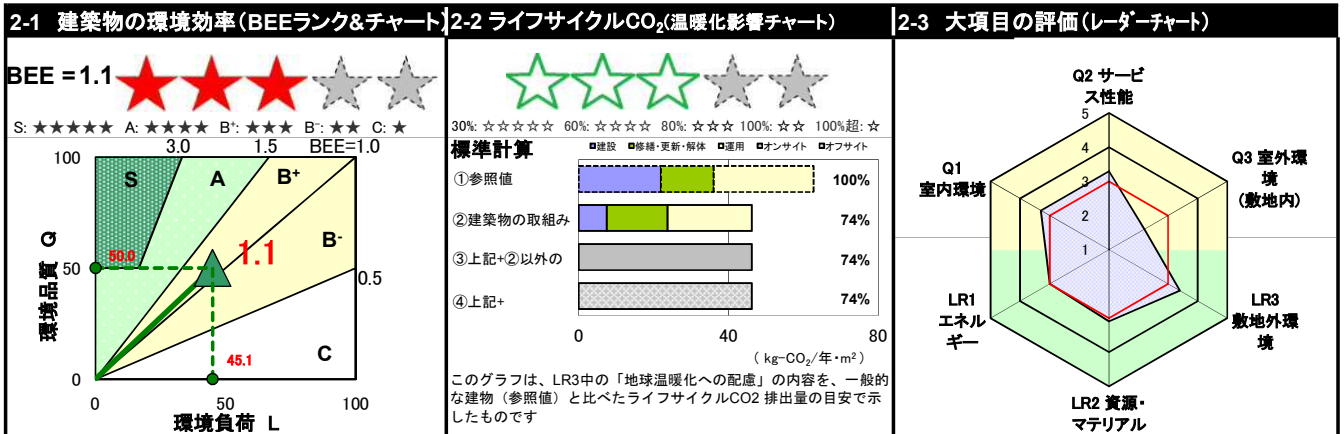


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14055

建築物名称	(仮称)宮崎台プロジェクト新築工事
建築主	株式会社長谷エコーポレーション 代表取締役社長 辻 範明
建築物の所在地	川崎市宮前区宮崎2丁目9-6
設計者氏名、建築士事務所名	杓野 巧 株式会社長谷エコーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	12,861.62m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上14階
工事完了年月	平成28年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)宮崎台プロジェクト 新築工事	階数	地上14階地下0階
建設地	神奈川県川崎市宮前区宮崎2丁目9-6	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・準防火地域	平均居住人員	766 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年7月 竣工	評価の実施日	2014年11月18日
敷地面積	4,159 m ²	作成者	長谷工コーポレーション
建築面積	1,425 m ²	確認日	2014年12月12日
延床面積	12,862 m ²	確認者	長谷工コーポレーション



CASBEE-川崎2011 (v.1.2)

(仮称)宮崎台プロジェクト 新築工事

14055

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針に適合している		
2 まちなみ・景観への配慮	川崎市景観計画に沿った色彩とした	1.8/4.3	2.1
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.7
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	省エネルギー等級3取得	5.0/7.6	3.3
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.2 屋光制御	バルコニー及び、カーテンレールの設置		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針に適合している	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー等級3取得	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.9/4.6	3.1
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。LGS工法を使用。		
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	空調・給排水配管の主要3種のうち2種以上がC以上	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.4/3.9	3.1
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。LGS工法を使用。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	雨水貯留槽にて、雨水流出抑制を行う計画としている	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針に適合している	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー等級3取得	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.7**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	構造躯体劣化等級対策等級3を取得	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	省エネルギー等級3取得	3.0/5.0	3.0
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2011年版 (仮称)有明台プロジェクト新築工事		欄に数値またはコメントを記入		14055					
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目	G	W	R	H	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境						0.40			3.3
1 音環境					3.0	0.15	3.1	1.00	3.1
1.1 騒音					3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0	0.50	
1.2 遮音					3.0	0.50	3.3	0.50	
1 開口部遮音性能					3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能							4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	0.20	
1.3 吸音									
2 温熱環境					2.2	0.35	3.0	1.00	2.9
2.1 室温制御					2.2	0.50	3.0	1.00	
1 室温					3.0	0.63	-	-	
3 外皮性能		W			1.0	0.38	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御					1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境					1.9	0.25	3.7	1.00	3.6
3.1 屋光利用					4.2	0.30	3.5	0.50	
1 屋光率					5.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口							3.0	0.30	
3 屋光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					1.0	0.30	4.0	0.50	
2 屋光制御					1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					1.0	0.25	-	-	
4 空気質環境					3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策					4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量					3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				2.4	0.40	4.0	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性							
2	高度情報通信設備対応		各住戸で1Gbitのブロードバンドが利用可能			5.0	1.00	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観		住居の天井高2.5m以上			4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース							
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30			
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31			3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48			
1	耐震性			3.0	0.80			
2	免震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.33			
1	躯体材料の耐用年数	R	構造躯体劣化対策等級3を取得	5.0	0.23			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.23			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		2.0	0.09			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.08			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R	主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を採用	4.0	0.15			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.23			
2.4 信頼性				2.8	0.19			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備		電話用にメタルケーブルを実装している。精密機器の地下設置は避けている。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり						2.6	0.50	
1	階高のゆとり					3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ					2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1	空調配管の更新性			3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			3.0	0.17			
3	電気配線の更新性			3.0	0.11			
4	通信配線の更新性			3.0	0.11			
5	設備機器の更新性			3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制				W	H			3.0
2 自然エネルギー利用								3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H			3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H			3.0
3 設備システムの高効率化				W	H			3.1
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)								3.1
集合住宅の評価								3.1
4 効率的運用								-
4.1 モニタリング				W	H			-
4.2 運用管理体制				W	H			-
LR2 資源・マテリアル								3.1
1 水資源保護				W	R			2.2
1.1 節水								1.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0
1 雨水利用システム導入の有無								3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無								-
2 非再生性資源の使用量削減								3.3
2.1 材料使用量の削減				W	R			2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R			3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R			2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			5.0
								0.07
								0.24
								0.20
								0.20
								0.05
								0.24
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用								4.0
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0
1 消火剤				W				-
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0
3 冷媒				W				3.0
								0.32
								0.68
								0.50
								0.50
LR3 敷地外環境								3.4
1 地球温暖化への配慮				W				4.0
省エネ対策等級3を取得								0.33
2 地域環境への配慮								3.0
2.1 大気汚染防止								3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0
1 雨水排水負荷低減					R			3.0
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0
3 交通負荷抑制					R			3.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R			3.0
3 周辺環境への配慮								3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0
1 騒音								3.0
2 振動								-
3 悪臭								-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制								3.0
1 風害の抑制								3.0
2 砂塵の抑制								-
3 日照障害の抑制								3.0
3.3 光害の抑制								4.4
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策								5.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0
								1.00
								-
								-
								0.40
								0.70
								-
								0.30
								0.20
								0.70
								0.30